



東京形成歯科研究会

&インプラント国際情報

平成26年3月吉日
No.15

原稿募集中

発行

編集 東京形成歯科研究会
企画 オクデラメディカル
発行者 奥寺元

東京都北区王子2-26-2-3F
TEL 03(3919)5111
FAX 03(3919)5114
E-mail: okudera@carrot.ocn.ne.jp
http://www.tpdimplant.com/

日本歯科新聞

2014年(平成26年)1月28日(火曜日) 第1820号 (6)

インプラント学において多大な影響を与えたCarl Misch氏の第3弾の翻訳本「成功するインプラント補綴の条件」の出版を記念した講演会が19日、東京都北区のオクデラインプラントセンターセミナー室で開かれた。本書は「インプラント治療における理論的根拠」「治療計画」「基礎科学」「インプラント集術」「軟組織・硬組織のリハビリテーション」「インプラントのメンテナンス」の6パートからなる1100ページを超える大作。

講演に先立ってあいさつした監訳の奥寺元氏は「インプラントに関わる歯科医師だけでなく、歯科医療界の将来にとっても大きな功績を残す記念すべき大作の出版に係わったことに感謝している。全体を把握して、臨床の場で必要とするページがすぐに開けるようになるぐらいまでに読めるように」と講演会の意義を話した。

講演では、総監訳の大阪大学歯学部教授の前田芳信氏と同歯学部歯学研究科

Misch氏
翻訳本

出版記念し講演会



Misch氏の翻訳本の総括要点を語る前田氏

日本歯科新聞より

時が経過してしまい迷惑をかけた。それでもミスがあるので、機会があれば修正したい」と大作翻訳の難しさを話した。

和田氏は、大作に関与する難しさと苦勞を語ったあと、インプラント治療に与える本書の意義の大きさを強調。その後、歯科インプラント患者の医学的評価、医学的既往歴、検査評価など、本書と大学等における臨床現場と対比させながら説明した。

講演後は「論議会」が行われ、前歯部単独歯欠損補綴、外科的視点から、歯科形態インプラント用語、診断用模型とサージカルテンプレートなど本書購入の歯科医師が取り上げた「章」について一つずつ意見交換した。

「MISCH 成功するインプラント補綴の条件」訳本出版記念講演会

懸田利孝追悼記念

時代に応じて内容を加筆・修正しながら、基本事項は忠実に変えない本書は、世界中で最も読まれているインプラント・テキストの一つです。

総監訳：前田 芳信 和田 誠大 監訳：懸田 利孝 奥寺 元

特徴

- ◆「論理的根拠」「治療計画」「基礎科学」「外科手術」「軟組織・硬組織のリハビリテーション」「メンテナンス」の6つのPart、42に及ぶChapterにより、インプラント治療に必要なすべてを網羅。
- ◆確実なエビデンスと、豊富な臨床例を基に解説。
- ◆CTや、コンピュータによるサージカルテンプレートなどの普及を受け、外科手法について大幅に加筆。また、術後のメンテナンスの重要性を従来にも増して強調している。
- ◆「いかにインプラント治療を成功させて患者さんに喜んでもらえるようにするか」、「その過程や術後にいかに問題を生じないようにするか」という著者の一貫した考えの集大成。

総監訳：前田 芳信 和田 誠大／監訳：奥寺 元らによる解説講演会

■日時：2014年1月19日(日)AM9:30～PM4:30 修了

■会場：東京／王子駅近く 王子歯科美容外科クリニック研修室

■参加費：訳本購入者無料(要登録)

■主催(公益) 日本口腔インプラント学会認定教育施設 東京形成歯科研究会

■協力(公益) 日本口腔インプラント学会認定教育施設 懸田敬植義歯研究所

■後援 永末書店

■両 日本口腔インプラント学会認定教育施設では来年度の認定研修会を募集中!

記念講演会申込先：オクデラメディカル FAX 03-3919-5114

ご氏名(ふりがな)	〒ご住所	TEL&FAX

Report

Misch氏の訳本に関与して

東京形成歯科研究会 秋知 明



平成26年1月19日(日)にオクデラインプラントセンター15階セミナー室にてMISCH翻訳本出版記念講演会が開催された。昨年の6月に永末書店から近代インプラント学のバイブルと言われるDr.Carl

Emisch著「MISCH 成功するインプラント補綴の条件」の翻訳本が出版された。本書は、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第二教室教授の前田芳信先生と助教の和田誠大先生の総監訳と奥寺元先生と懸田利孝先生の監訳のもと出版された。また、出版に際しては我が東京形成歯科研究会も特別協力をした。午前中、前田芳信先生と和田誠大先生により本書の解説があった。本書は6つのPart、42に及ぶChapterの構成となっている。前田先生は「論理的根拠」「治療計画」のPartを担当され、それぞれPartのポイントを話し頂いた。本書の原題は「Contemporary Implant Dentistry」でそのまま訳すと「現在のインプラント治療」となるが「いかにインプラント治療を成功させて患者さんに喜んでもらえるようにするか」、「その過程や術後にいかに問題を生じないようにするか」というDr.Mischの考えが一貫して示されているため日本語版では「MISCH 成功するインプラント補綴の条件」というタイトルにしたという事であった。また、最後に本書をインプラント治療の辞書として座右の書として欲しいと結ばれた。つづいて和田誠大先生により「基礎科学」「外科手術」「軟組織・硬組織のリハビリテーション」「メンテナンス」のPartについての解説があった。大阪大学で実際行われていることもお話し頂き、より実践的な内容の講演であった。

午後は、MISCH翻訳本出版協力者による輪読会及び症例発表があった。渡辺泰典先生は第33章「前歯部単独歯欠損補綴・外科的視点から」を担当され、続いて鈴木正史先生は第2章「歯科形態インプラントの用語」、西山和彦先生は第13章「診断用模型とサージカルテンプレート」、豊田寿久先生は第36章「骨増生と骨増生材料の鍵」、奥寺俊允先生は第37章「抜歯、ソケットグラフト」、鳥村敏明先生は第38章「上顎洞の解剖学、病理学、移植術」とそれぞれ担当された。各先生方はご自分の臨床例をもとに発表して頂いた。その中でも、鳥村先生には「安全、確定なイタリアの最新ソケット法」という副題で、我々が見たことのないような機器についてご紹介頂き会場から質問がいくつ出た。

出版記念講演会終了後、場所を北とびあ王子東武サロンに移動して「前田先生・和田先生をはじめ東京形成歯科研究会会員の出版協力者に感謝状が渡された。今回インプラント学のバイブルともいわれる

「MISCH 成功するインプラント補綴の条件」の出版に、数ある臨床研修施設の中で東京形成歯科研究会が協力できたことは大変意義が深い。奥寺先生の行動力に頭が下がると同時に感謝したい。



前田芳信先生



和田誠大先生

第33回 関東・甲信越支部学術大会

東京形成歯科研究会共催セミナー報告 — 長期臨床の重み —

東京形成歯科研究会 渡辺 泰典



この度の日本口腔インプラント学会第33回関東甲信越支部学術大会において、2月9日(日)に東京形成歯科研究会は学会共催セミナーを開きました。タイトルは「サイナスリフト日本における歴史的経過とそのバックグラウンド理論と実際」25年の臨床経験から一でした。

皆様もご存知と思いますが、サイナスリフトとは上顎臼歯部の垂直的骨が少くない症例に対して、上顎洞内への垂直的骨増生を行うテクニックですが、歴史的に1970年代から米国アラバマのTatum

OHらのスタディーグループで行われていたようです。米国でもすでに45歳以上の部分無歯顎患者の約40%は、少なくとも上顎臼歯部に数本の欠損を有する統計もあるので、かなり以前より上顎臼歯部の骨が少ない症例に対しても挑戦的にインプラント埋入が行われてきたことも頷けます。そこでこのたびの共催セミナーでは、比較的早期に日本に取り入れられてきた経緯経過とその理論と実際を、特に長期症例を皆さんと供覧しながら多くの皆さんとディスカッションしようという企画でした。

そもそも日本においては、数々の方法論や文献データが報告されているが、25年近々の経過の話は少なく、



この時期大変参考になる内容ではないかと期待された。座長は小嶋榮一先生で、日本のインプラント世紀からの先生で、そして演者は奥寺元先生、星野清興先生(ユニバーサルインプラント研究所)、古澤利武先生(東北口腔インプラント研究会)、梨本正憲先生(総合インプラント研究センター)の各先生方からご講演頂きました。30年前から国際学会に出かけてサイナスリフトの研究をした先生方で、奥寺先生には日本における導入とその経緯を中でも、上顎洞を埋めることを神の摂理に反する事や上顎洞の生理や耳鼻咽喉科とのかかわりでの議論を紹介し、その拡大解釈として洞底挙上することにより、蓄膿症の予防になることの議論を戦ってきた経緯を紹介された。

また、今は当たり前になってきているCTは25年前にすでに応用を手掛けた、星野先生は私財を投じて歯科応用に取組んでいた経緯を紹介されて、その経緯から現在のCTの現状の貢献は甚大であると感じた。古澤先生は洞内の骨補填材を数々検証した経緯を話され

て、またそのテクニックを紹介された。最後の梨本先生は組織学的検証を詳しく報告されて更なる学問的検証の裏付けをして頂いた。

共に日本でも従来からの骨膜下インプラントで対応してきた上顎洞底までの骨高径が少ない症例でも、1988年頃から歯根型インプラント埋入に対してサイナスリフトが行われてきたという経緯や、サイナスリフトを行うと上顎洞底の既存骨面から新生骨が出来てくるという理論が紹介されました。最近では、歯槽頂アプローチのサイナスリフトやソケットリフトも行われてきて、上顎臼歯部欠損症例に対して歯根型インプラントによる症例拡大を、皆さんと長期症例で供覧できました。



梨本正憲先生



古澤利武先生



星野清興先生



奥寺元先生

豊富な経験を持ち、尚かつ現在もその検証と研究に向かう演者らの姿に感銘を受けました。まさしく最近にはない、良い講演であったと思います。会場はほぼ満席で、そしてOZの会長の塩路先生もいらつしやり、白熱したディスカッションが行われ成功裏に終了しました。

奥寺 元

今は、安心安全の医療の一面側である。それに便乗しての高価な器具器材が氾濫している。先端技術やマクロな効果を誇張し、器具器材の売り込みが盛んである。確かに医療の最重要課題は安心安全であるが、万に一つの事例やマクロ効果が過剰反応して必要以上にナースになってはいないか？

それだけでなく、全神経を集中し、また臨床においては身体への酷使の日々、その中にある必要情報の提供は自由且つ重要であるが、必要以上の情報が医療現場に溢れていて、翻弄されストレスになっているのではないだろうか？自由市場の社会においては、あの手この手のPRが必要だと思われるが、しかし歯科の臨床現場を考えると、行き過ぎで身に余り問題がある。

しかし整理して情報を流す、頼りにしているある大学は、客観的に科学的エビデンスのもとに、その手技・器材を採用される事が基本と思われるが、自らエビデンスが無いがすべてに高い機械を使用していると豪語された。その発言は、学会の場でしかも最高学府大学の立場は、開業医にとって模範的治療の場で、それを参考に臨床家が目指しているが、その事を言及したら、大学だから何もやっていけないことはない、と反論してきた。自らまだ確立していない理論をみとめながら、大きな矛盾を感じる言葉でいきどおりを感じた。

コラム



東京形成歯科研究会 海外研修ツアー募集

東京形成歯科研究会では、海外との積極的な交流を行い国際情報を効果的に診療に受け入れるよう心がけています。連携団体とのジョイント学会もあり、会員外の方でも口演・ポスター発表及び参加を希望いたします。ツアーの旅行日程は、後日、決定次第ご連絡いたします。

Aコース 2014年3月29～30日

韓国ソウル開催／美容外科学会顎再生口腔部門 参加ツアー

国際顎顔面美容口腔外科認定医 取得可能



大会長 Dr. J-H Lim

[First Announcement] 2014 International Meeting of Asia Forum for Aesthetic Surgery & medicine[AFAS]

The 2nd Congress of Asia Anti-Aging & Regenerative Medicine,
Korea Academy of Aesthetic Surgery & Medicine[KAAS]

Bコース 2014年6月13～14日

SYFAC第7回国際 Growth Factors パリ・シンポジウム参加ツアー

国際血液再生臨床応用 (ISBB) 認定医 取得可能



Cコース 2014年11月4～7日 世界予防再生医学台湾大会

WCPRM2014／7th World congress on Preventive and Regenerative Medicine 参加ツアー

Chientan Youth Activity Center, Taipei, Taiwan

国際血液再生臨床応用 (ISBB) 認定医 取得可能



大会長 Dr. Chen-yan Su

Dコース 2014年11月29～30日 APAID 大会

アジアパシフィックデンタルインプラント会議 in 仙台

一次世代インプラント大会

国際血液再生臨床応用 (ISBB) 認定医 取得可能



大会長 古澤 利武

ご挨拶

先生方がこの東京形成歯科研究会のニュースをご覧になっている頃には、穏やかで過ごしやすい季節になっていることと思います。

東京形成歯科研究会・事務局の押田でございます。

施設長の奥寺の指示で、東京形成歯科研究会からオクデラメディカルに委託され事務局を担当させていただきます。早いもので約半年の月日が経過致しました。至らない点が多々あり、会員の先生方には、日々ご迷惑をお掛けし大変恐縮している次第でございます。

さて、二〇二〇年のオリンピック開催都市が東京に決定し、日経平均株価も一万五千円前後を維持(二〇一四年三月十二日時点)し、為替も百円台で安定しており、日本国内では非常に前向きな雰囲気となっている状況です。

しかし、国内では消費税率のUPによる景気動向の変動、海外では中国や韓国との関係悪化、今後解決していかなくてはならない課題が山積しています。

また、最近ではニュースの記事としてアベノミクスの三本目の矢「成長戦略」をどう実行して、結果・成果を出してゆくかで、今後の日本経済(医療業界も同様)がどのように変化していくかが方向付けられる大きな要因の一つと言われています。がしかし、遅々として進展しているようには全く見えません。ご承知のように、社会保障費の削減に連動した医療制度の改革も規制改革の一つです。現状、岩盤規制により一般医療では保健診療と自費診療の混合診療の解禁は見送られていますが、規制が緩和されていく方向は継続していくものと考えています。それにより、医科と歯科との格差が是正されて、歯科の先生方にも安全安心がより求められることとなるのでしょうか。

小生におきましては、まだまだ若輩者ではございますが、歯科業界におかれましては二十年先という、時代の大局を見据えながら、日々情報収集し勉強を積み重ねていき、歯科業界において微力ながら貢献できればと考えています。そのために、大先輩であられる各先生方からご教授いただけたら、この上なく幸いです。

毎月の認定講習会や、日々のご連絡やご案内にて各先生方と接する機会があり、御指導を頂戴することとなり、また大変ご迷惑をお掛けすることもあろうかと思っております。日々研鑽を積み意向ではございますが、今後は東京形成歯科研究会からの委託業務を遂行しながら、オクデラメディカルの販売にも注力していく所存でございますので、何卒宜しくお願い致します。

以上、乱筆乱文ではございますがご容赦ください。引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

東京形成歯科研究会 事務局 押田浩文

共に歩んだインプラント研究の学徒逝く

定永先生へ追悼の言葉

ああ、定永 健男先生あなたは、卓越した医学研究の認識を持ち、特に先端技術の口腔インプラント臨床において、世界観での情報収集と技術の研鑽は優れており、その認識で近代日本のインプラント臨床を演出していただきました。そのおかげにより、現在歯科インプラントは広く普及し、国民的治療となりました。しかし医療は停滞が許されず、常に追及されなければ、と厳しい発言繰り返しておりました。いまでは、そのような意見を聞くことが出来ないことは、誠に日本口腔インプラント学会の大きな損失です。

定永先生!! 我々残された日本口腔インプラント学会の面々で先生の理念を継承していきますので、安心してゆっくりとお休みください。

公益法人日本口腔インプラント学会認定施設

東京形成歯科研究会 医学博士 奥寺 元



